

ことばの在り方を究めて — 9ヶ月の研究成果の報告 —

日時： 2017年 7月3日(月) 11:00～12:30

場所： 神戸大学 国際文化学研究科 E410 (学術交流ルーム)

講師： ALBIN Aaron 氏 (神戸大学国際文化学研究科 講師)

報告内容：

神戸大学に着任してあっという間に9ヶ月が経ちました。担当授業の削減、論文指導や委員会などといった研究以外の責任の免除、国際文化学研究推進センターからの補助金、寛大なスタートアップ経費など、様々な形で最適な研究環境を整えていただき、全力で研究を進めてまいりました。この9ヶ月の間に、本研究科の学生7人に研究推進員(RAまたはそれに準じるもの)をしてもらい、多くの他大学(アメリカで4つ、オランダで1つ、中国で1つ、日本で1つ)の研究者とのネットワークを活用して協同研究を行った結果、複数の研究分野をまたぐ業績を生み出すことができました。この発表では、既に研究成果の形で実を結んだ研究プロジェクトの例を5つ挙げ、それぞれ10分ずつ他分野の研究者向けに解説します。残りの時間で、その他の現在進行中のプロジェクトを紹介します。

報告者プロフィール：

2015年アメリカ合衆国インディアナ大学ブルーミントン校言語学科及び第二言語習得学科博士後期課程修了。2015-2016年にペンシルベニア州立大学言語科学センター(Penn State Center for Language Science)博士課程修了後研究員。学位論文のテーマは「第二言語のイントネーションにおける母語による影響の類型化：日本人英語学習者に見られる3種の転移現象」。